

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
大豆	吸実性カメムシ類	やや少	やや少
ばれいしょ	アブラムシ類 ジャガイモガ ヨトウムシ類（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ） オオタバコガ（ 注意報第6号 ）	並 多 やや多 多	並 多 やや多 多
いちご （本圃）	うどんこ病 炭疽病（ <i>G.cingulata</i> ） アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ	並 並 並 並 やや多	並 やや多 並 やや多 やや多
野菜・花き類	オオタバコガ（ 注意報第6号 ）	多	多
かんきつ	青かび病、緑かび病 ミカンハダニ	並 少	並 少
果樹共通	クワゴマダラヒトリ	並	並

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

大豆

1. 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査（9筆）の結果、寄生株率は1.3%（4.2%）、株当たり虫数は0.0頭（0.1頭）であった。発生圃場率は33.3%（38.9%）であった。

イ 10月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、寄生株率は6.0%（21.5%）、株当たり虫数は0.1頭（0.3頭）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

収穫時期が近いので薬剤散布にあたっては使用基準を遵守する。

ばれいしょ

1. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査（20筆）の結果、寄生株率は1.1%（0.4%）、発生圃場率

は25.0%（7.3%）であった。

2. ジャガイモガ

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査（20筆）の結果、被害株率は2.7%（0.4%）、発生圃場率は40.0%（11.0%）であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

土中のいもが産卵を受けないように土寄せを十分に行う。

3. ヨトウムシ類（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ）

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査（20筆）の結果、被害株率は28.1%（7.2%）、発生圃場率は90.0%（45.1%）であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

幼虫の齢期が進むにつれ薬剤の効果が低下するので、圃場をよく観察して早期発見に努め、若齢期のうちに防除する。

4. オオタバコガ

平成19年10月15日付病害虫発生予察注意報第6号による。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査（27筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率0.5%）。

2. 炭疽病（*G.cingulata*）

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査（27筆）の結果、発病株率は0.1%（0.1%）、発生圃場率は11.1%（5.5%）であった。

イ 10月8、9日に強い降雨があり、病原菌の飛散、感染に好適であった。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 萎凋・枯死株は見つけ次第、除去し本圃内に放置しない。

イ 一部で来年の親株用苗に発生が見られるので、併せて見回りを徹底し、発病株は見つけ次第除去する。

ウ 薬剤散布の際には、使用基準を遵守する。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.7%(0.9%)、発生圃場率は7.4%(12.1%)であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は1.1%(1.9%)、発生圃場率は29.6%(11.3%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤散布は下葉かき等、古葉の整理を行い、散布むらがおこらないように、十分量を丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。

5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は3.0%(1.4%)、発生圃場率は17.2%(11.2%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

幼虫の齢期が進むにつれ薬剤の効果が低下するので、圃場をよく観察して早期発見に努め、若齢期のうちに防除する。

野菜・花き類

1. オオタバコガ

平成19年10月15日付病害虫発生予察注意報第6号による。

かんきつ

1. 青かび病、緑かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病果は認められなかった(発病果率0.1%、発生圃場率3.9%)。

イ 向こう1か月間の降水量は平年並か少ない見込みである。

2. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は1.9%(8.2%)、発生圃場率は20.5%(44.5%)であった。

1. クワゴマダラヒトリ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(13地区)の結果、幼虫巢の発生度(県平均)は0.7と一昨年の1.7より低く、ほぼ平年並の発生と思われる。なお、去年は台風の影響で産卵樹が激しく落葉したため、幼虫巢の発生は認められなかった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 園周辺50~100m以内の幼虫巢を除去すると、来春の発生を抑制することができる。
イ 局所的に発生が多いところがあるので注意する。

※発生度は、各地区ごとに樹高およそ5m以上のアカメガシワ及びカラスザンショウ樹上の幼虫巢の発生状況を下記の基準で達観調査した。

発生度	甚	5 (幼虫巢発生樹 80%以上)
	多	4 (" 40%以上 80%未満)
	中	3 (" 10%以上 40%未満)
	少	2 (" 2%以上 10%未満)
	微	1 (" 2%未満)
	無	0 (幼虫巢の発生無し)

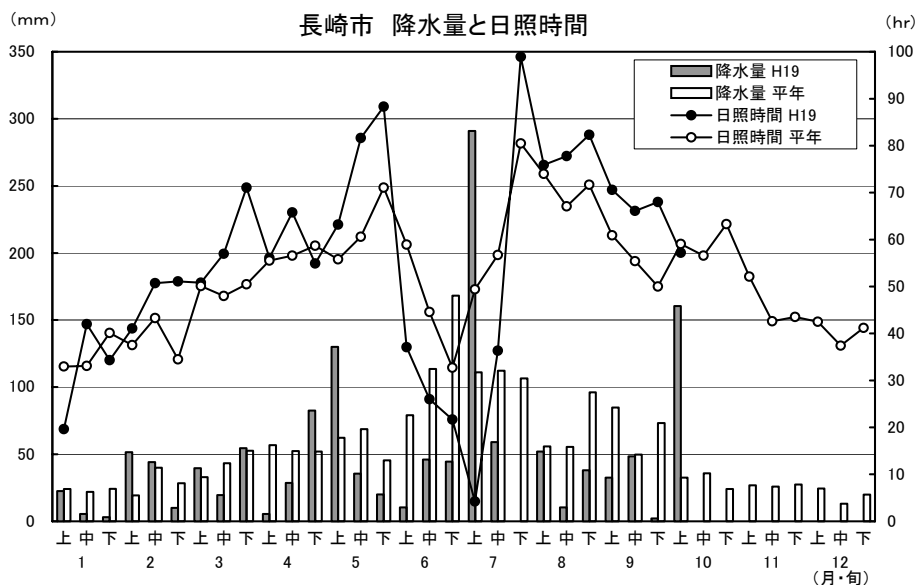
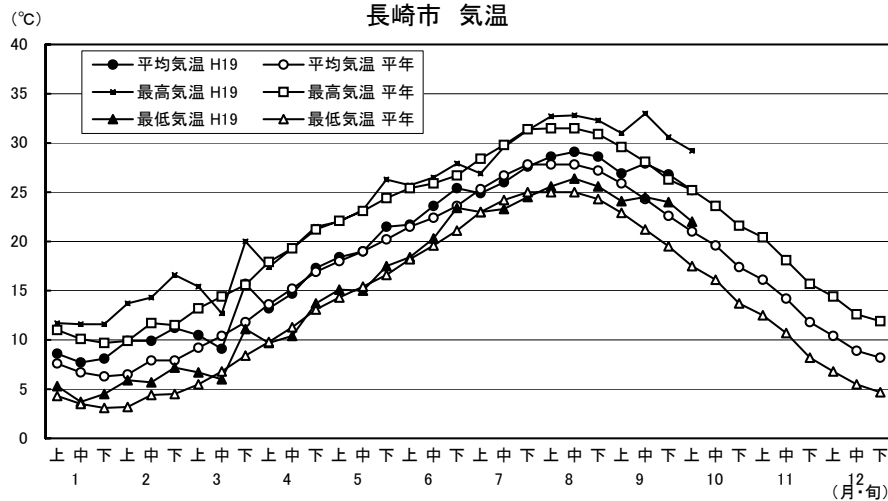
【参考】
気象

(平成19年10月12日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	30	40
降水量	40	30	30
日照時間	20	40	40

※予報対象地域：九州北部地域

平成19年の気象経過（長崎海洋気象台）



「農薬使用基準の遵守について」

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、使用基準（適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数）及び使用上の注意事項を守って、適正に使いましょう。

- 文中の市町村名は合併前で表記しています。
- 病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>
- 「防除所ホームページ」を利用して、ながさき農林業総合情報システム（一部会員制）
アドレス：<http://www.n-nourin.jp/>）やその他の情報を閲覧することができます。
- この情報に関するお問い合わせは、電話またはEメールでお願いします。
長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027, Eメール：kngs0301@sp.jppn.ne.jp